

小学校

平成25年度

教育研究員研究報告書

図画工作

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題について	1
1	研究主題設定の背景	1
2	研究主題の設定について	1
3	副主題の設定について	1
II	研究の仮説	2
1	仮説設定の理由	2
2	目指す児童像	3
III	研究の視点	3
IV	研究の方法	4
1	基礎研究	4
2	実践研究	4
3	実態調査	4
V	研究の内容	5
1	研究構想図	5
2	発想・構想の図	6
3	検証授業	7
VI	研究の成果	21
1	検証授業前、後における実態調査結果の比較	21
2	研究の成果	23
VII	今後の課題	24

研究主題

学びをつなげ、自らの表現を高めていける児童の育成 ～発想や構想からの学びを生かし、表現できる指導の工夫～

I 研究主題について

1 研究主題設定の背景

中央審議会答申（平成20年1月）では、「自分に自信がもてず、自らの将来や人間関係に不安を抱えているといった子供たちの現状」を踏まえ、体験活動の充実について提言している。今年度で新しい学習指導要領の全面実施から3年目を迎えているが、図画工作においても、自信をもって活動し表現できる児童の育成が求められている。

本研究を開始するに当たって1284名の児童を対象（都内公立小学校 抽出4校）に行った実態調査では、「いつも自信をもって作品をつくっている・自信をもっている時もある」と答えた児童は約70%であった。自信がもてる具体的な場面としては「いいアイデアが浮かんだ時」「得意な題材の時」「うまくつくれた時」が多く挙げられた。一方で自信をもてない理由として「これでいいのか不安」「人に見られるのが恥ずかしい」「思ったとおりにできない」「アイデアが思い付かない」などが挙げられた。

図画工作の学習活動における、最近の児童の傾向として、造形活動への興味・関心・意欲が高く、初めて出会うものに興味をもつことができるが、自分の表現に自信がもてず、失敗をおそれ、積極的な試行錯誤や自分なりの表現ができないなどの課題がある。自信がない理由として、自分の思いや考えを表現するための手だてが分からないこと、自己肯定感、安心感をもって活動に取り組めていないことが考えられる。

一方、自分の表現に自信がある児童の具体的な姿として、「喜んで生き生きと自己の表現を高めていこうとする」「自ら工夫して表そうとする」「学び（過去の経験や題材の中での学び）を次の活動につなげて表現しようとする」姿が考えられる。

2 研究主題の設定について

小学校学習指導要領 図画工作の目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、作りだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」である。児童が造形活動を行う中で、作りだす喜びを味わいながら自分の表したいことや表現に自信をもつことは、自己肯定感を高め豊かな情操を養うことの基盤となる。上記の実態調査等を踏まえ、本研究では、児童自身がこれまでの経験や学びを生かしつつ、自分の表現したいことに自信をもちながら主体的に造形活動を行い、自分の表現を更に高めていくことを目指し、主題を「学びをつなげ、自らの表現を高めていける児童の育成」と設定した。

3 副主題の設定について

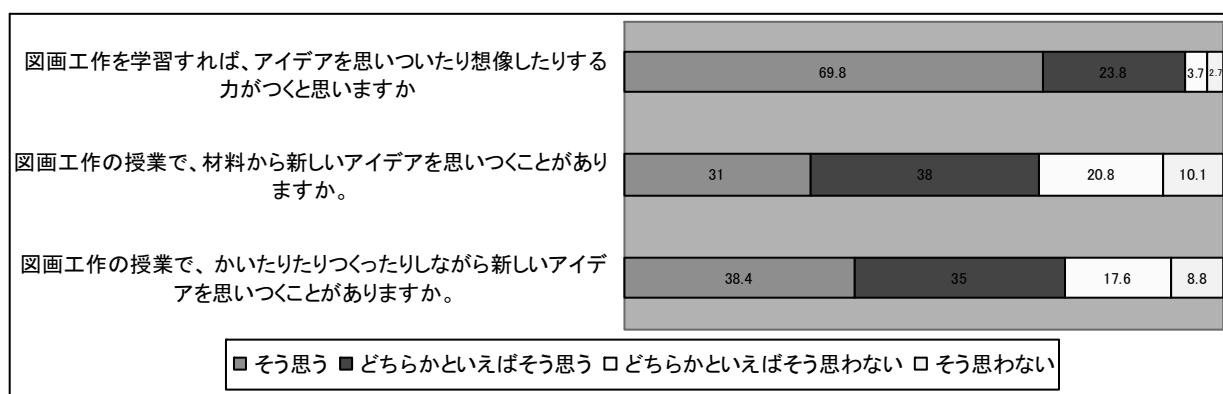
副主題は、本研究における主題に迫る切り口として、発想や構想の能力に注目した。造形活動において、関心・意欲・態度を前提としながら発想や構想の能力を培うことは、児童の思いや表したいことへの実現に大きく関わり表現活動の基盤になると考えられる。

実態調査で「アイデアを練ったり、作り方を考えたりするのは好き」「どちらかといえば好き」と答えた児童は89.8%と多かった。しかし、「アイデアを練ったり、作り方を考えたり

するのは得意」「どちらかといえば得意」と答えた児童は 72.5%であり、児童は発想や構想をすることは好きだが、自信がない様子が明らかになった。

また、次に示す「特定の課題に関する調査—小学校図画工作・中学校美術—」（国立教育政策研究所教育課程研究センター平成 21 年度）からは、児童の発想や構想の能力を伸ばせるであろうという期待は高いが、実際の表現活動の場面では、新しいアイデアを思い付けない児童が多いことが分かる。

本調査では調査結果の概要と指導の改善事項の中で「児童が自分なりの感じ方や考え方を発展できるように、発想や構想を助けるような具体的な体験の機会の確保、手掛かりになる視点や方法の提示などの指導を工夫する。」と述べるとともに、試行錯誤しながら発想や構想を広げられるようにすることが大切であるとしている。児童の発想や構想の能力を高め、発想や構想したことを生かして表現できるような手だてをとることが、自信をもって活動できる児童の育成につながると考え、副主題を「発想や構想からの学びを生かし、表現できる指導の工夫」とした。



（特定の課題に関する調査「—小学校図画工作・中学校美術—」国立教育政策研究所教育課程研究センター平成 21 年度より抜粋）

II 研究の仮説

仮説

「表現の始まりや過程において、児童が豊かに発想や構想を広げるための指導の工夫を行えば、経験したことや学んだことを生かし、自分の表現に自信をもちながら表現を深めたり、新たな表現を生み出したりする児童を育成できるであろう。」

1 仮説の設定について

以下の 3 つの観点による指導の工夫を考案した。

- (1) 表現を行う上での、基盤となる資質や能力である児童の「造形への関心・意欲・態度」を高める指導の工夫を行う。
- (2) 表現を行う上での基盤となる、資質や能力である児童の「発想や構想の能力」を豊かにする指導の工夫を行う。
- (3) 思い付いたものやイメージしたものをつくりだす上で、計画することやつくり方を考えるなどの発想や構想する経験を重ね、児童が発想や構想からの学びを生かせる指導の工夫を行う。このことにより、以下の児童を育成できると考えた。

2 目指す児童像

- (1)豊かに発想や構想を広げる児童(アイデアやひらめきがたくさんある、違うアイデアが浮かぶなど)
- (2)自分の経験とともに発想や構想からの学びを生かし、表現を深めたり、新たな表現を生み出したりする児童(もっとよい表現や作品になるように考えたり、試したり、つくり方を工夫したりする、新しい方法に挑戦するなど)
- (3)自分が考えたことに自信をもって表現する児童(児童自身が独自に考えたアイデアで失敗をおそれずに表現しようとする、自分の思いやイメージ、考えたことを生き生きと表現できるなど)

Ⅲ 研究の視点

本研究では、児童一人一人が、様々な造形体験や学びを生かし、自分の表現に自信をもちながら、更に表現力を高めていける指導方法を工夫した授業の提案を行うこととした。

例えば、児童が豊かな発想や構想ができるような機会の設定及び方法を示すことや、発想したことを作品にするための構想する方法を学ぶことで、児童自身が思いやイメージ、考えを具体的な形にできると考えられる。

本研究では「A表現(1)造形遊び」と「A表現(2)絵や立体・工作」で働く発想や構想のプロセスの違いを明確にしながらA表現(1)、A表現(2)の平面と立体についてそれぞれ検証授業を行った。

研究の視点は、研究主題「学びをつなげ、自らの表現を高めていける児童の育成～発想や構想からの学びを生かし、表現できる指導の工夫～」を具現化するために、仮説を基に具体的な手だての項目を設定した。

- 児童の関心・意欲を高める授業の工夫
 - ・題材、材料、用具の提示の工夫
 - ・達成感や喜びを味わわせるための肯定的な声掛け・支援
- 児童の発想や構想を広げるための指導の工夫
 - ・題材のねらいに沿って発想や構想をするための場の設定
 - ・発想や構想の手掛かりになる視点や方法の提示
 - ・発想や構想を行う時間の確保
- 児童の発想や構想を生かして表現する指導の工夫
 - ・発達の段階に応じた発想や構想の能力を高める系統性のある題材設定、題材開発
 - ・発想や構想したものや作品等の資料の活用や提示

IV 研究の方法

次の方法で研究主題を立て、研究仮説の検証を行う。

1 基礎研究

本研究員の所属校の児童を対象とした実態調査によって児童の実態を把握・分析し、目指す児童像と本研究の方向性を明らかにする。また、「図画工作科、美術科(美術、工芸)の現状と課題、改善の方向性(検討素案)(教育課程部会等の審議を踏まえて再整理したもの)」（中央教育審議会、平成19年7月）、「平成21年度特定の課題に関する調査(小学校・中学校)ペーパーテスト・実技調査集計結果及び質問紙調査集計結果-図画工作・美術-」(国立教育政策研究所教育課程研究センター平成21年度)といった参考文献等から、今日の教育課題を明確にする。以上の研究を踏まえ、研究主題に迫るための仮説及び具体的な手だてを考察する。

2 実践研究

仮説に基づいた題材設定、題材開発を行い、各題材に応じた指導方法を研究する。

検証授業によって、指導方法が有効であったかを検証及び分析し、研究協議で成果と課題を明らかにする。

3 実態調査

本研究員の所属校において、児童を対象に、「発想や構想」、「造形活動への自信」の視点で、質問紙法によるアンケートを3回実施する。

第1回は、担当学年全ての児童を対象に実施し、主に児童の実態把握の資料とする。

第2回、第3回は、検証授業を実施する学級の児童を対象とする。検証授業の事前・事後の調査結果を比較し、児童の行動や意識の変容を明らかにすることで、指導方法が有効であったかを検証及び分析することを目的とする。

V 研究の内容

1 研究構想図

【教育研究員共通テーマ】 学習指導要領に対応した授業の在り方

【教育課題】

- ・自信をもって表現する児童の育成
- ・思考力・判断力・表現力等の育成
- ・豊かな心や健やかな体の育成

【児童の実態】

- ◇造形活動への興味・関心・意欲が高い。
- ◆自分なりの発想や構想を生かして表現ができない。
- ◆自信をもって表現することができない。

【図画工作科の目標】

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

【図画工作科で育成する資質や能力】

- ・造形への関心・意欲・態度
- ・発想や構想の能力
- ・創造的な技能
- ・鑑賞の能力

【研究主題】

**学びをつなげ、自らの表現を高めていける児童の育成
～発想や構想からの学びを生かし、表現できる指導の工夫～**

【研究の仮説】

表現の始まりや過程において、児童が発想や構想を広げるための指導の工夫を行えば、経験したことや学んだことを生かし、自分の表現に自信をもちながら表現を深めたり、新たな表現を生み出したりする児童を育成できるであろう。

【研究の内容】

【研究の方法】

- 基礎研究
- 実践研究（手だてを踏まえた検証授業、考察、授業改善、授業提案）
- 実態調査

【手だて】

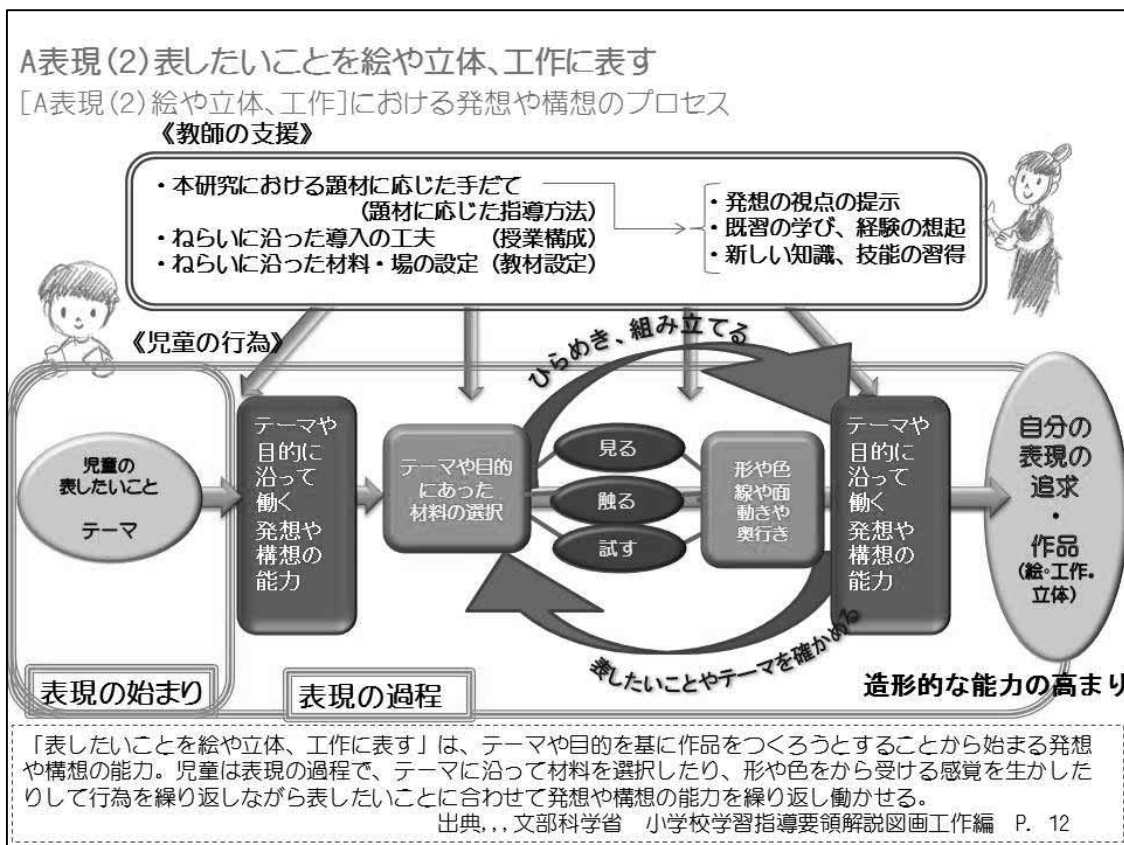
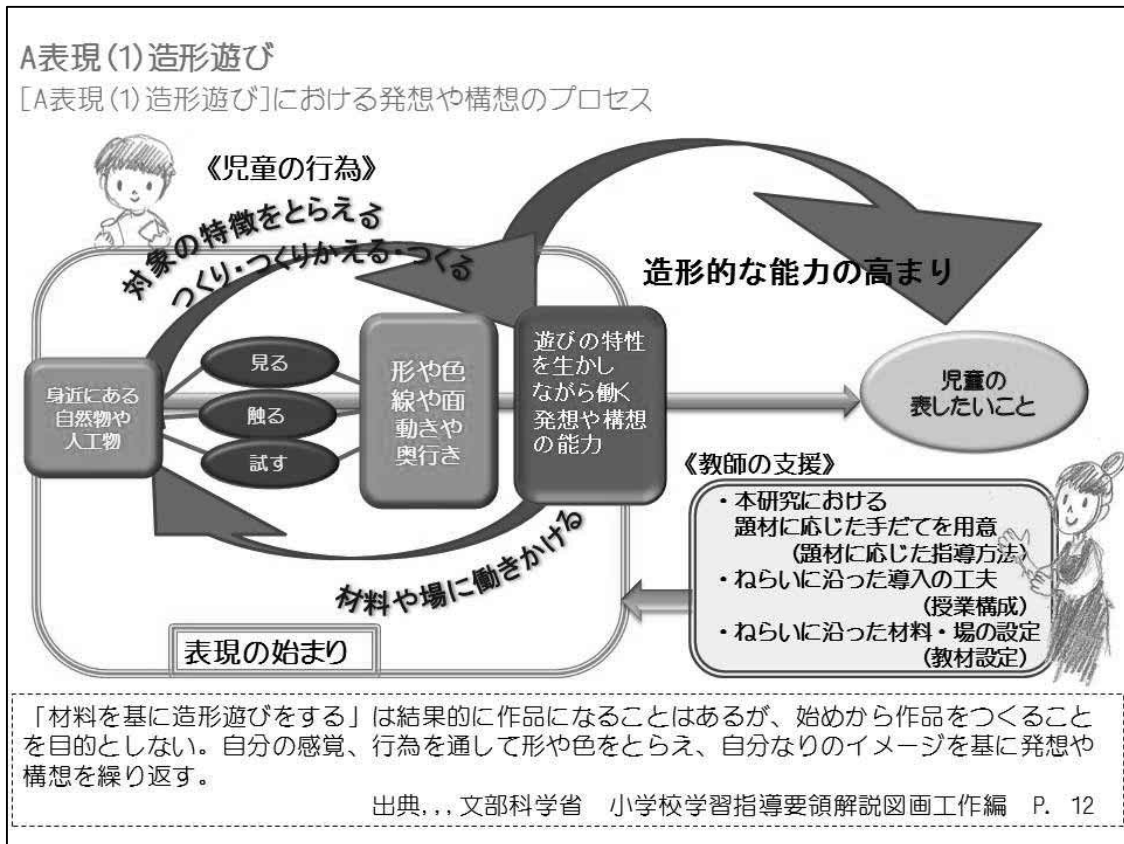
- 児童の関心・意欲を高める授業の工夫
 - ・題材、材料、用具の提示の工夫
 - ・達成感や喜びを味わわせるための肯定的な声掛け・支援
- 児童の発想や構想を広げるための指導の工夫
 - ・題材のねらいに沿って発想や構想をするための場の設定
 - ・発想や構想の手掛かりになる視点や方法の提示
 - ・発想や構想を行う時間の確保
- 児童の発想や構想を生かして表現する指導の工夫
 - ・発達段階に応じた発想や構想の能力を高める系統性のある題材設定、題材開発
 - ・発想や構想したものや作品等の資料の活用や提示

【目指す児童像】

- 豊かに発想や構想を広げる児童
- 自分の経験とともに発想や構想からの学びを生かし、表現を深めたり、新たな表現を生み出したりする児童
- 自分が考えたことに自信をもって表現する児童

2 発想や構想の図

本研究におけるA表現（1）と（2）で働く《発想や構想のプロセス》の違い



3 検証授業

検証授業①

1 題材名「もちもちクネクネ 合わせてあそぼう」 A表現（1） 対象 第4学年

2 題材の目標

手や体全体の感覚を十分に働かせて、軽量紙粘土や身近なもの等の材料を組み合わせる
つくる活動を楽しむ。

3 題材の評価規準

（1）題材の評価規準

	ア 造形への関心・ 意欲・態度	イ 発想や構想の 能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の 評価 規準	軽量紙粘土やアルミ線などの材料に興味をもち、思い付いたことを試したり工夫して表したりする活動を楽しもうとしている。	材料などを試しながら、思い付いたことや表したいことを見付け、形を変えたり材料を組み合わせたりしている。	材料や用具の特徴を生かして組み合わせ、表し方を工夫している。	自分や友達の活動や作品のよさや面白さ、美しさを感じ取っている。

4 本題材における発想や構想からの学びを生かし、表現できる指導の工夫

手だて	具体的な内容
児童の関心・意欲を 高める 授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の始まりにおいて、材料の特徴や楽しさを伝える演示を通し、児童の意欲を高める。 ・表現の過程において、児童一人一人が試そうとしていることや工夫や表現に共感し、具体的によいところをほめたり、励ましたりする。
児童の発想や構想を 広げるための 指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発想や構想を豊かにするため、また色々な試行錯誤ができるよう、軽量紙粘土を「まるめる・のばす・ねじる・ちぎる」、アルミ線を「切る・曲げる・つなげる」等の活動の視点を示す。 ・材料や表現方法を児童自らが選んだり決めたりする場面を設定する。
児童の発想や構想を 生かして表現する 指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのつながりを意識した題材設定を行う。 (領域の系統性、材料の発展性を意識した内容)

5 指導観

（1）題材観

本題材は、学習指導要領第3・4学年の内容A表現（1）のウ《前学年までの材料や用具についての経験を生かし、組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどしてつくること。》を基に設定した。A表現（1）は、①材料に進んで働き掛け、表し方を見付けたり試したりするなどの過程を楽しむ活動、②材料を並べたり積んだりするなどの手や体全体を働かせる活動、③材料の形や色を操作したり場所の特徴を生かしたりするなどの構成的な活動、を通して、一人一人の資質や能力を十分に働かせ、造形的な創造活動の基礎的な能力を育てることを意義としている。

A表現（1）は、児童が材料や場所などと出会い、それを手にするなどして、自分で目的を見付けて発展させていくのに対し、A表現（2）は、想像したことをかく、使うものをつくるなど、あらかじめ決められた主題や内容がある、という発想や構想のプロセスの違いがある。

本題材は、軽量紙粘土やアルミ線等を使って児童が思い付いたことを試したり工夫して表したりすることで、造形的な能力を培う題材である。この題材を行うことで、児童が材料などに進んで働き掛け、自分の感覚や行為を通して捉えた形や色、イメージなどから思いのままに発想や構想を繰り返し、経験や技能などを総合的に活用できる能力を育てたいと考える。

(2) 教材観

本題材では軽量紙粘土、アルミ線等を使用する。4年生児童は、2年生から図工室での学習を重ねているが、軽量紙粘土は2年生、3年生と繰り返し経験している親しみのある身近な材料である。また、軽量紙粘土やアルミ線などの可塑性の高い材料を使うことで、表現の抵抗を少なくできると考える。さらに、塊材である軽量紙粘土、線材であるアルミ線、また、面材であり塊材にもなるアルミ箔等、感触や質感が異なる材料を用意すること、児童一人一人の表したいものに合わせて材料を選択できる場面を設けることで、児童の発想や構想の能力を伸ばすことができると考える。

(3) 材料・用具の設定

材料…軽量紙粘土、アルミ線、アルミ箔等、板目紙等

用具…はさみ、ペンチ

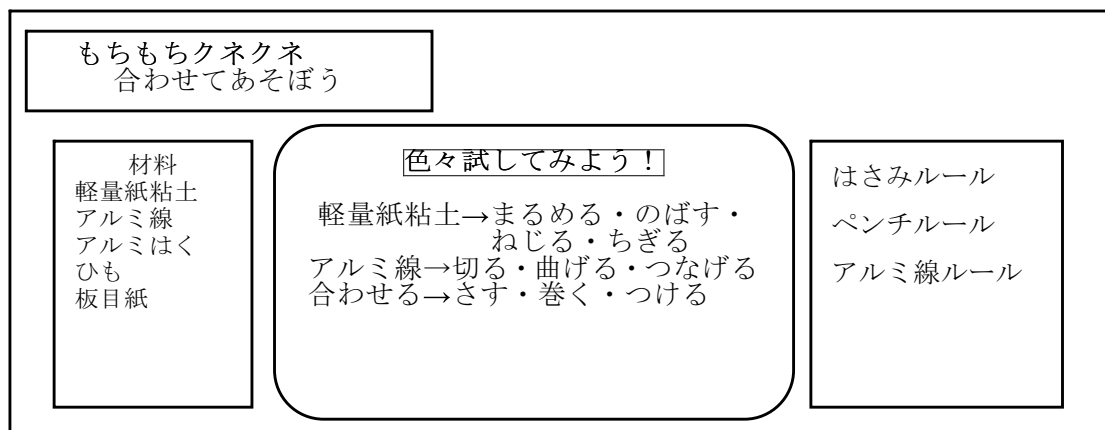
(4) 場の設定

- ・主材料である軽量紙粘土、アルミ線、ペンチは、効率的に使えるようグループごとに用意しておく。その他の材料は、使いたい児童のみが使えるよう、材料コーナーに用意しておく。
- ・児童机を大きく3つのグループになるよう設定しておき、個人から少人数グループ、少人数グループから多人数グループへと活動が広がってもよいようにしておく。
- ・はさみ、ペンチ、アルミ線の使い方を確認し、児童が安全に活動できるよう注意する。

(5) 本題材における[共通事項]

- ・形や色、材料などを試しながら、それらが作り出す形や色や組み合わせの感じを捉えること。
- ・形や色や組み合わせの感じを基に自分のイメージをもつこと。

(6) 板書計画



6 指導と評価の計画（全2時間）

☐ Cの状況と判断される児童への手だて

主な学習活動 児童の姿	始まり 過程 振り返り	児童の発想や構想する力を育むための指導の工夫 ◆指導上の留意点◇支援	☆評価の視点 (評価方法)
<p>【導入】 10分 1 本時のめあてを知る。 2 材料と出会う。 3 材料に触れ、色々試してみる。 ・材料の感触を楽しんだり、形を変えたりする。</p>		<p>・材料の特徴や楽しさを伝える演示を通し、児童の意欲を高める。 ・児童の発想や構想を豊かにするため、また色々な試行錯誤ができるよう、活動の視点を示す。 ◆アルミ線、ペンチを使う際の安全指導を行う。</p> <p>◇材料を通してどんなことができるのかを考えさせ、活動を促す。</p>	<p>☆軽量紙粘土等の材料に興味をもち、思い付いたことを試したり、工夫して表したりしようとしている。 【ア造形への関心・意欲・態度】 (活動の様子)</p>
<p>【展開】 60分 4 思い付いたことを試したり、工夫して表したりする。</p>		<p>・児童一人一人が試そうとしていることや工夫、表現に共感し、ほめたり、励ましたりする。</p> <p>◇活動の視点の確認をしたり、参考になりそうな他児童の活動を示したりする。</p> <p>・材料や表現方法を児童自らが選んだり決めたりする場面を設定する。</p>	<p>☆試しながら表したいことを見付け、形を変えたり、材料を組み合わせたりしている。 【イ発想や構想の能力】 (活動の様子)</p> <p>材料や用具の特徴を、生かして組み合わせ、表し方を工夫している。 【ウ創造的な技能】 (活動の様子)</p>
<p>【まとめ】 20分 5 お互いの活動を見合い、よさや面白さ、美しさについて発表する。 6 振り返りシートを書く。(題材についての振り返り) 7 図工カードを書く。 (毎時間行っている活動の振り返り) 8 片付ける。</p>	<p>・デジタルカメラで撮影した写真を電子黒板に映しながら活動を振り返る。</p> <p>・本時の活動で試したり工夫したりしたことを認める声掛けをする。</p>	<p>☆自分や友達の活動や作品のよさや面白さ、美しさを感じ取っている。 【エ鑑賞の能力】 (発言・振り返りシート)</p>	

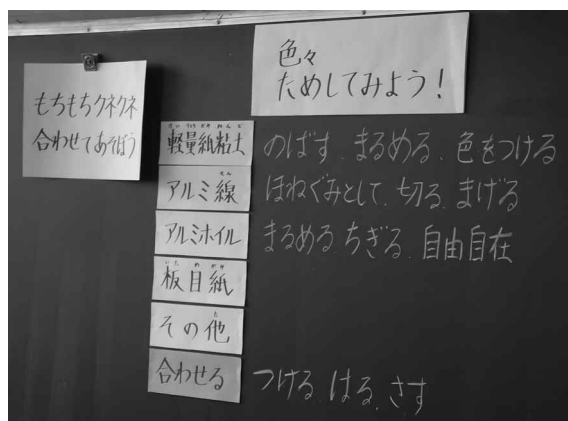
7 成果と課題

(1) 手だてに照らし合わせた成果と課題

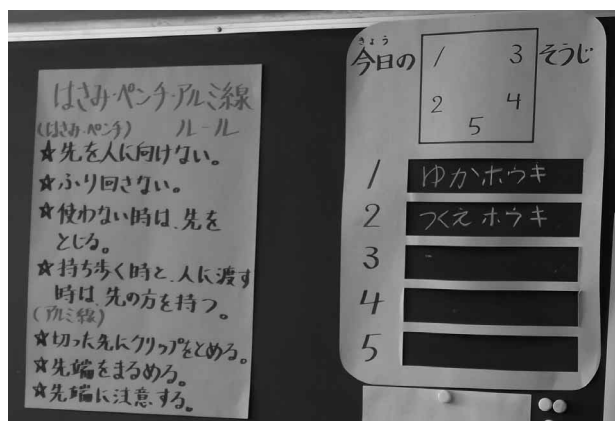
○成果 ●課題

<p>児童の関心・意欲を高める授業の工夫</p>	<p>○児童への共感的な声掛けによって意欲が高まっていた。 ○演示により本時で十分に働かせる能力を示すことで、児童の意欲を高めるとともに、ねらいに沿った活動へ向かわせることができた。</p>
<p>児童の発想や構想を広げるための指導の工夫</p>	<p>○友達との会話や関わりを通じてつくりたいものを見付けていく姿が見られた。 ○ デジタルカメラを使った振り返りの鑑賞活動により、学級全体の児童の活動のよいところを見付け合うことができた。 ●導入時に実際の材料を使った教師の演示の工夫が必要であった。 ●授業内における鑑賞活動を行うタイミングを検討する必要がある。</p>
<p>児童の発想や構想を生かして表現する指導の工夫</p>	<p>○児童は経験のある紙粘土材料を好んで使い、初めて扱うアルミ線をたくさん使う児童は少ないことが分かった。 ●今後、更に発達段階における材料を扱う経験に系統性を検討する。</p>
<p>その他</p>	<p>○授業後、児童の思い切りがよくなり、自由に取り組む姿が見られるようになった。</p>

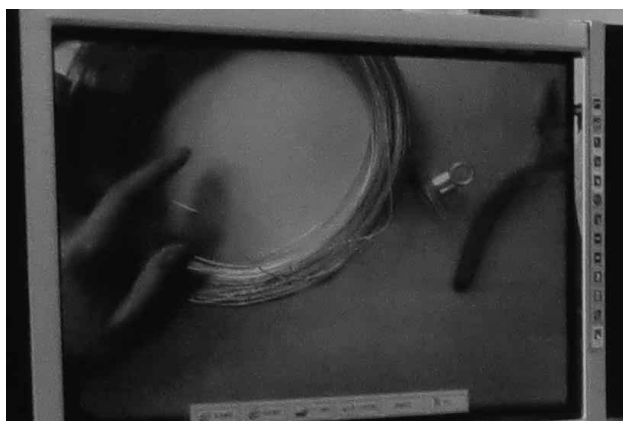
(2) 板書及び電子黒板の活用



板書 (題材名、本時の目標、材料等)



板書 (安全指導等)



電子黒板を使つての演示

検証授業②

1 題材名 「マイブランドマークをつくろう」 A 表現 (2) B 鑑賞 (1) 対象第5学年

2 題材の目標

自分の思いや考えを言葉、形や色を組み合わせる思い付いたことを試したり工夫したりしてマークをつくる活動を楽しむ。

3 題材の評価規準及び学習にした具体の評価規準

(1) 題材の評価規準及び学習に即した具体の評価規準

	ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
評価規準 題材の	自分の思いを大切に、マークをつくる活動に興味をもっている。	自分自身のイメージを基にテーマを決め、それを基に、形や色の組み合わせから発想し、構想を思い付いている。	テーマに合わせて、形や色の面白さや美しさを、構成して表し方を工夫している。	それぞれの作品の工夫したところや、よさや構成の美しさなどに関心をもって見ている。

4 本題材における発想や構想からの学びを生かし、表現できる指導の工夫

手だて	具体的な内容 (表現の始まり・過程)
児童の関心・意欲を高める授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な方法・手段の提示 (意欲の持続) 《マークづくりのポイントの提示》 賞賛やワークシートへの言葉添えによる活動意欲の高まり 作品の活用 (実用できることの目的・期待感)
児童の発想や構想を広げるための指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートやマインドマップに言葉添え (イメージの見直し) 見本や作品の鑑賞により発想や構想の手掛かりとなる視点や方法の提示 友達との意見交換 (鑑賞からイメージの確認、広がり) アイデアスケッチの時間の確保
児童の発想や構想を生かして表現する指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート、マインドマップによる活動の振り返り 掲示物による活動の振り返り、発想や構想を広げながらマークをつくるための形や色の部品集め 作品の鑑賞 (新たな表現の発見・期待) 中学校美術 A (2) のデザイン分野へのつながり (題材の系統性)

5 指導観

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領の内容 A 表現 (2) イの《形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、表し方を構想して表すこと》を受けている。

このマークづくりの題材を通して、子供たちの発想や構想の能力を高めることをねらいとしている。マークづくりの要素の中にも含まれる形や色の構成から美しさや機能的なデザイン要素を学ぶことで中学校美術 A (2) のデザイン分野へつながる題材である。また、デザインの中に含まれる「相手に伝えること」の相手意識をもったマークづくりの活動も他者との関わりを考える上で重要である内容だと考える。

「形や色について」は、共通事項にも明記されているようにどの題材においても含まれる重要な事項である。高学年にもなると、ただつくり進めるのではなく、形がつくり出す動き (ムーブメントやリズム) や色の調子 (グラデーションなど)、それらの配置から生まれる美しさも感じ取れるようになってくる。このことから本題材では、マークづくりの学習の中で「形や色」のもたらすイメージをふくらませ、児童の発想や構想の能力を高めていきたいと考える。またマークをつくる上で重要な形や色のもつイメージを感じたり広げたりしながら言葉として具現化することや、マークの意味やそこに含まれている (テーマ性) などを読み取れるようにしたい。そして形や色がつくり出す美しさを感じ取らせ、発想する力 (イメージ) と構成する力 (プランニング) の資質や能力を高めながら、児童の表現に生かせるようにする。

マークづくりの学習から自らの思いや願いをもたせ、伝えたいことを明確にして視覚伝達デザインの用途を考えながら、表し方をそれぞれ工夫させたいと考える。

(2) 教材観

マークのポイントとなる「形や色」「構成」「用途」の指導において「共通事項」で示している内容を重視する。共通事項のイ「形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと」の視点からもマークづくりは児童の造形活動や鑑賞活動を豊かにするためにも効果的であると考える。


形や色などから児童自らが自分の心に浮かんだイメージを具体化するような手だてとして、この題材ではワークシートやマインドマップを使用する。マインドマップとは、自分を中心として、自分が「好きなもの」「興味のあること」など自分にまつわるものをどんどん書き出し、自己の特徴を見付け出すものである。また、ワークシートには自分の表現で大切にしている主題は何か、どの形や色から表現したい意図が分かるのか、など簡単な絵でかきとめるためのアイデアスケッチを豊富にさせるものである。マインドマップやワークシートを有効に活用することで発想や構想の過程を自然と身に付けられるようにしたい。また、マークの特徴である形の単純化や構成の方法についても学ばせ、表現が高まるようにする。できた「マイブランドマーク」をエコバックに印刷したり、シールとして活用したり発表・発信することで主体的に行動する実践的な態度や資質、能力を育てていきたい。個々の思いを表すためにどんな表現ができるか、形や色の組み合わせの美しさなどにも気付かせ、指導しながら見る人に自分の思いや願いを伝えられるような「マーク」づくりができるように支援していく。


(3) 材料、用具

教師・・・マインドマップ、ワークシート、マークの見本

児童・・・色鉛筆、鉛筆

6 指導と評価の計画 (全5時間)

 C の状況と判断される児童への手だて

主な学習活動 児童の姿  は児童の学習課題	始まり ◆指導上の留意点 児童の発想や構想を育むための指導の工夫	☆評価の視点 (評価方法) <input type="checkbox"/> 「努力を要する」(C) と判断する具体例
1 今回の学習について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「マイブランドマーク」をつくろう</div> ・マークの印象やもつ意味について発言したり、マークづくりへの意識を高めたりする。	◆マークづくりにおける「テーマ設定」が明確になるようにマークをつくる手順や考え方を提示する。 ◆様々なマークを見せ、マークのもつ意味や利用性について考えさせる。	☆マークの特徴やその表し方・色や形に興味をもち、進んで活動する。 【ア造形への関心・意欲・態度】
2 ロゴマークとシンボルマークの違いについて学ぶ。 ・ロゴマーク、シンボルマークそれぞれの見本を見て、それぞれの違いや気付いたことを発言する。	◆ロゴマークは「文字」が主体となることやシンボルマークは「絵」が主体となることを教え、違いを理解しながらマイブランドマークをつくれるようにする。 ◆ロゴマークとシンボルマークの例 (鑑賞) ◆マークはなぜあるのか、どんな意味合いがあるのかを見本を示し問いながら、マークがもつ意味を考えさせ、マークを見る人 (伝えたい人) に伝えたい願いや思いがあることに気付かせる。 ※視覚伝達デザインとしてのマークづくりを意識させる。ピクトグラム ii の意味についても知らせる。	

<p>3 形や色のもたらすイメージについて学ぶ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>形や色から思い浮かぶイメージを想像してみよう</p> </div>	<p>過 程</p>	<p>◆さまざまな色の見本や形を見せ、その色がもつイメージをワークシートに言語化し、連想しながら具現化できるようにする。</p> <p>◆ワークシート・マークの例(鑑賞)</p>
<p>4 「マーク」をつくるために「テーマ」設定をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>表したい思い・伝えたいことをまとめよう</p> </div>	<p>第 3 ・ 4 次</p>	<p>◆〈マインドマップの活用〉 自分を多面的に捉えながら、表したい思いや伝えたいテーマを決められるように、マインドマップを作成する。</p> <p>〈ワークシートの活用〉 「性格」や「好きなもの」から「自分」を表現できる「形や色」は何かを連想し、ワークシートに描いたものを生かし、振り返りができるように支援する。</p> <p>◆マインドマップの作成・友達との話し合い表したのものへの言葉添え</p> <p>◆思いを具現化できるように、事前に学習した「形や色」について、イメージを言語化したものを掲示して、発想を広げられるようにする。</p> <p>◆いくつかのマークの例を掲示し、マークのよさや工夫点などに気付けるようにする。</p>
<p>5 「マイブランドマーク」をつくる。 自分はどんな人でマークに、どんなイメージをもたせたかを言葉にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチを繰り返す。 ・形を単純化する。 	<p>第 5 次 本 時</p>	<p>◆マークづくりのポイントの提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>よいマークの条件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 わかりやすい 2 はっきりしている 3 印象的(美しい) </div> <p>◆ワークシートを用意し、マークを通して伝えたいことや表したいこと・思いを明確に言葉にまとめられるようにする。</p>

☆自分の思いを大切にマークを作る活動に興味をもっている。【ア】

マークづくりに興味もてずに、ワークシートにかくことができない。

対話を通じて児童の思いを聞き、マークをつくる具体的な方法を紹介して一緒につくりすすめる。

☆テーマに合わせて、形や色の面白さや美しさを構成して、表し方を工夫している。
【ウ創造的な技能】

どうやって形を単純化すればいいのか、まとめたりしたらいいのかかわからず、絵のまま、とまっている。

絵から形を単純化する方法をいくつか示しマークに近づけられるようにする。

☆アイデアスケッチを繰り返し、美しさや効果を考えて構想を練っている。
【イ発想や構想の能力】
(ワークシート、アイデアスケッチ、活動の様子、発言)

☆「形や色」のもたらすイメージから自分が表したいことに合った「絵」を思い付いている。【イ】

☆自分が表したいことを基に「形や色」のイメージを生かし、その組み合わせや構成の仕方を発想し、「マイブランドマーク」をつくらせている。
【ア】【ウ】

	<p>マークづくりのポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自分をあらわす形や絵を決める（シンボル決め） 2 形を「図」や単純化して組み合わせる 3 形にあてはめてみる 	<p>自分が表したいものやテーマが思い付かず、どうやって形をかいたらいいかわからずに、アイデアスケッチが進まずにいる。</p> <p>対話やワークシートから児童の思いを引き出しながら、アイデアスケッチを一緒にかき出すことや、また、友達の制作過程を見せるなどして、自分で進んでかいていけるようにする。</p>
<p>6 「マイブランドマーク」を完成させる。制作過程の作品を友達と鑑賞し、それぞれの表現のよさや工夫点を感じ合う。（表現の広がり）</p>	<p>第6次まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆これまでの学習を振り返るワークシート ◆マーク例の掲示物 ◆友達との意見交換（鑑賞） ◆いくつかの「マーク」の例を掲示し「マーク」のよさや工夫点など気付けるようにする。 	<p>☆視覚伝達デザインとしての用途や美しさなどを考え、自分の思いに合わせ、新しい表現を加えたり、工夫したりしている。（活動の様子、観察）【ウ】</p> <p>☆自他のよさや工夫点を感じ取っている。【エ鑑賞の能力】（活動の様子、ワークシート）</p>

（事後）できた「マーク」作品を発表、鑑賞し合いどこに表示したいか、使用目的の方法を考える。

◎自他の作品の違いに気づき、それぞれのよさを味わう。

◎できたマークをどこに表示したら効果的かを考えている。

★使用目的に合わせた表示やシール、プリント加工したものによるマークの活用

i 視覚伝達デザイン・・視覚伝達デザイン（ビジュアルコミュニケーションデザイン）とは、色や形などを用いて伝えたい情報を効果的に構成して表わすデザインのこと。ポスター、マーク、案内状、サイン（標識や案内板）パッケージ（袋・包装紙など）などが挙げられる。それぞれの目的や用途などの条件をしっかりとふまえて制作される。
出典 秀学社「美術資料」

ii ピクトグラム・・絵文字や絵言葉のこと。表現対象である事物や情報から視覚イメージを抽出、抽象化し、シンプルな図の記号であり言語の制約を受けない「視覚言語」である。非常口のサイン、禁煙サイン、車いすなど、一部のマークは国際的にデザインと意味が統一され、駅・空港などの公共空間にみられ普及している。誰が見てもその意味が分かるマーク。参考文献... 太田幸夫: ピクトグラムのおはなし, 日本規格協会 (1995).

7 成果と課題

(1) 手だてに照らし合わせた成果と課題

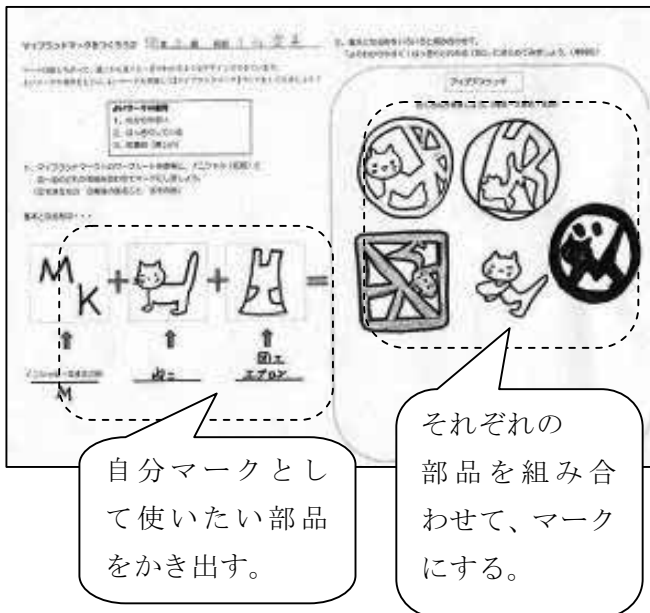
○成果 ●課題

<p>児童の関心・意欲を高める授業の工夫</p>	<p>○授業でつくったマークを名刺やバッグに印刷して実際に使うようにしたことで、自分のマークに愛着をもって活動することができた。</p> <p>●「単純化」という言葉よりも「わかりやすくしよう」「目立たせよう」の方が分かりやすかった。児童に投げ掛ける言葉を吟味したい。</p>
<p>児童の発想や構想を広げるための指導の工夫</p>	<p>○具体的な手段を教師が提示したことが児童の活動の助けになった。</p> <p>○発想や構想の段階を追ってワークシートを用意したことで、その時間に学ぶことや考えることの視点や方法を、はっきり提示するとともにアイデアを練る十分な時間を確保することができた。</p> <p>●アイデアスケッチをかく際は、「たくさんかこう」よりも「3つかこう」など限定すると、児童の負担を減らすことができた。</p>

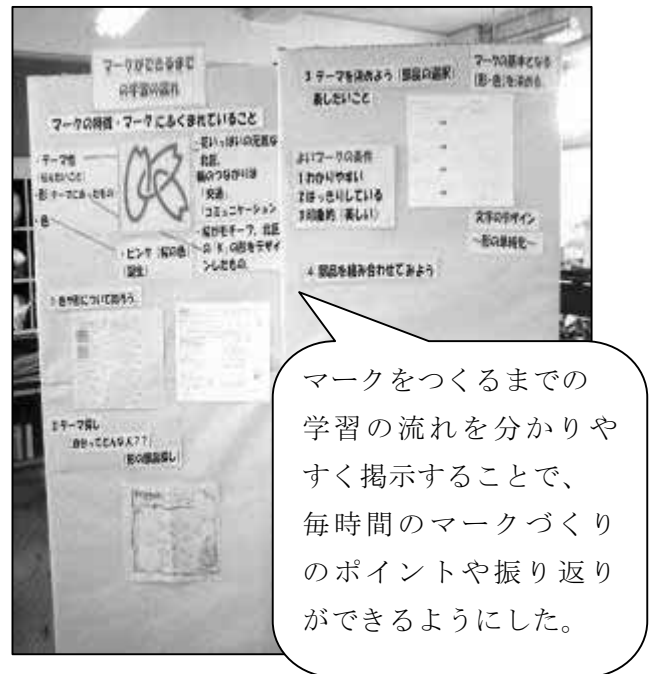
<p>児童の発想や構想を生かして表現する指導の工夫</p>	<p>○ 掲示物によりこれまでの学習を振り返ることができるようにした事で、今までの学びを生かして取り組むことができた。</p> <p>○ 前年度に学んだ「色と形」の既習事項がマークづくりに生かされた。</p> <p>● 情報量や完成度が高度だったので、児童の発達段階に合わせた導きが必要であった。</p>
<p>その他</p>	<p>○ 丸や菱形等の穴をあけた枠を用意し、色々な形にマークを当てはめて見られるようにしたことが、自分のデザインの形を決める際の支援になった。</p> <p>○ つくったマークを名刺やバッグにした時に、名刺交換するなど自然と関わり合いが生まれた。</p>

(2) 教師の示したワークシートや掲示物

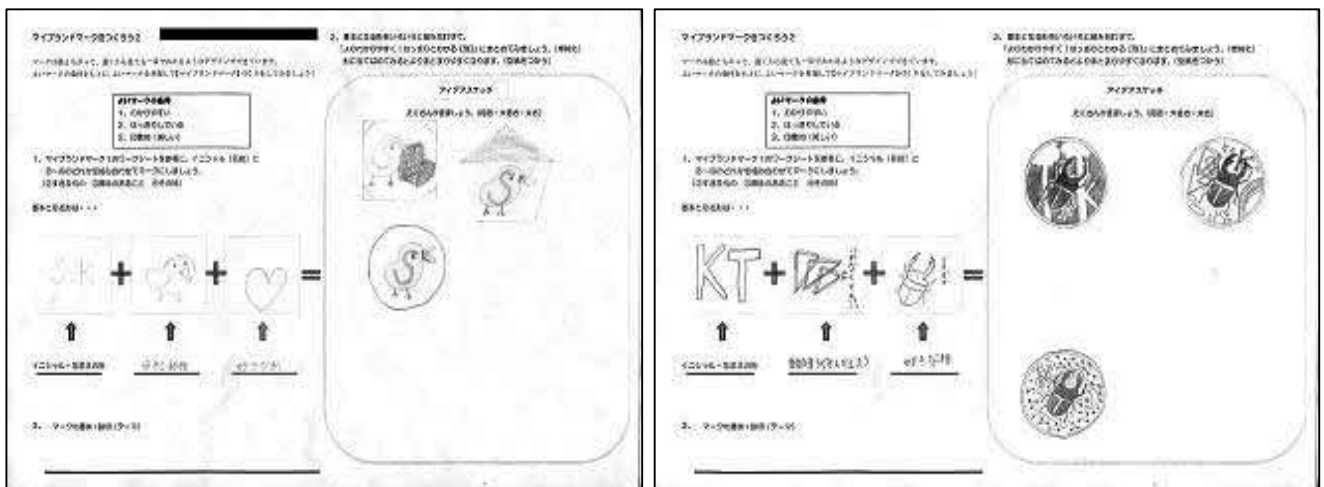
教師の示したワークシート一例



掲示物一例



(3) 児童の作品



教師の示したワークシートの例がマークをつくる際の手掛かりとなった。

検証授業③

1 題材名 「回してみると…」 A表現(2) 対象 第5学年

2 題材の目標

クランクの仕組みから発想や構想を広げ、動きを生かしたおもちゃを工夫して表す。

3 題材の評価規準

	ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	①クランクの仕組みから発想や構想を広げ、おもちゃをつくることに興味をもっている。	①クランクの仕組みから発想や構想を広げ、つくりたいおもちゃを思い付いている。 ②アイデアスケッチや、クランクの動きなどを基に、自分のイメージに合った材料や形を考えている。	表したいイメージに合わせて、動きを考えながら、材料や用具の特徴を生かし工夫している。	自分や友達のアイデアや動きの面白さ、表し方の工夫を感じ取っている。

4 本題材における発想や構想からの学びを生かし、表現できる指導の工夫

手だて	具体的な内容
児童の関心・意欲を高める授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の始まりにおいて、クランクの仕組みが視覚的に分かるような見本を提示し、児童の関心・意欲を高める。 ・児童の発想の面白さや工夫を認める声掛けをする。 ・鑑賞活動では、互いのおもちゃを動かしてみ、クランクを使ったおもちゃを楽しむことで、工夫やよさを見付け、楽しむことを伝え、児童の目的意識を高める。
児童の発想や構想を広げるための指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が思い付いたアイデアを具体的にイメージできるよう、アイデアスケッチの時間を確保するとともに、計画カードを準備し、全体の計画が明確になるようにする。 ・活動の過程で、ストローの出る位置が異なる見本を出し、児童が発想するための視点を示す。 ・活動の過程で、面白い工夫をしている児童の活動を紹介し、全体で共有する。 ・材料コーナーをつくり、児童が必要に応じて材料を選択できるような場を設定する。
児童の発想や構想を生かして表現する指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・クランクの仕組みの見本を、活動の過程において、手にとって確認できるようにしたり、針金を曲げる際にガイドとなる補助教材を用意したりするなど、児童が仕組みを理解し、構造を確認しながら制作できるようにする。 ・活動の始まりで取り組んだ計画カードを、活動の過程において振り返りができるように配布し、活用する。 ・系統立てた題材を設定する。本題材では、第4学年で取り組んだ紙工作の経験を踏まえ、新たな材料である針金と「動き」の要素を加えた紙工作を設定する。

5 題材観

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領の内容A表現(2)アの「感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見つけて表すこと」を受けて設定している。

児童は活動の始まりで、クランクの動く仕組みを知る。この動く仕組みをきっかけに、思い付いたことや想像したことを、アイデアスケッチや計画カードに表しながら、どのような動く仕組みのあるおもちゃをつくりたいかを具体的にイメージする。児童は最初に思い付いた発想や表したいことを具現化するために、試行錯誤を重ねながら表し方を検討する。表現活動の過程では、表し方や作り方の段取りを練り直したり、新しく思い付いたことを新たな発想として表現に取り入れたりしながら、創造的な技能を働かせ、同時に発想や構想の能力を発揮していくであろう。

クランクの動きから楽しく発想し、更に発想や構想したことを試行錯誤する活動から、自信をもって表現することで、造形的な能力を身に付け伸ばしていけることを期待する。

(2) 教材観

本題材では、主材料として、針金、箱、ストローを使う。針金は初めて扱うため、針金の安全な扱い方、針金を曲げるためのペンチの基本的な使い方などの安全に留意し、活動の始まりにおいて指導する。箱は、児童が持参したものを使うが、児童のアイデアによっては、工作用紙でつくるなどして、児童の発想に合ったものを使えるようにする。ストローは、児童にとって身近な材料であるとともに、簡単に折ったり、切ったり、ステープラで留めたりできるため扱いやすく、表現の過程で容易に段取りを考え直したり、つくり直したりすることができる。と考える。

クランクの仕組みをつくるため、針金を曲げる活動で困難を感じる児童が出ることが予測されるため、どのように曲げればよいのかをあらかじめ工作用紙に黒マーカーで書き込めるガイドを準備しておくなど、児童が発想や構想する前の時点で抵抗を感じないよう支援を工夫する。併せて本題材の「動く」 という仕組みを児童に分かりやすく伝え、その上で、児童が豊かに発想や構想をしていけるよう、使用する色画用紙、工作用紙などをまとめ、材料コーナーの場を設定する。また、児童が使いたいと考える材料を整理して書き込めるような、ワークシートを工夫するなどの手だてを用意する。

(3) 材料・用具の設定

教師…針金、ストロー、色画用紙、工作用紙、セロハンテープ、両面テープ、ステープラ、ペンチ、千枚通し、カッターナイフ、カッターマット、カラーペン、針金の曲げ方がかかれた台紙(針金の曲げ方ガイド)、ワークシート(計画カード)

児童…空き箱、はさみ、接着剤、ステープラ、セロハンテープ、使用したい材料



<p>主な学習活動 児童の姿</p> <p>□ は児童の学習課題</p>	<p>導入</p> <p>第1次</p> <p>第2次</p> <p>第3次</p> <p>本時</p> <p>過程</p> <p>第4次</p> <p>第5次</p> <p>まとめ</p>	<p>児童の発想や構想する力を育むための指導の工夫</p> <p>◆指導上の留意点 ◇支援</p>	<p>☆評価の視点 (評価方法)</p>
<p>1 題材と出会う。</p> <p>□ 動く仕組みのあるおもちゃをつくろう。</p> <p>・クランクの仕組みを知る。</p>	第1次	<p>・クランクの動く仕組みが分かる見本を動かして見せ、児童の興味・関心を高める。</p> <p>見本を実際に動かすなどさせ、仕組みの理解を深め、関心を高める。</p>	<p>☆クランクの仕組みから発想を広げ、おもちゃをつくることに興味をもっている。</p> <p>【ア関心・意欲・態度】 (活動の様子)</p>
<p>2 どんな動きをするおもちゃをつくりたいかアイデアを考える。</p> <p>・アイデアスケッチをかきながら、思い付いた動きや、おもちゃのアイデアを具体的にイメージする。</p>	第2次	<p>・アイデアスケッチの時間を確保し、思い付いたアイデアをかきとめたり構想したりできるように、計画カードを用意する。</p> <p>ストローの動きから何を思い浮かべるかなど具体的な声掛けをし、発想の視点を示す。</p>	<p>☆クランクの仕組みから発想を広げ、おもちゃをつくることに興味をもっている。</p> <p>【ア】(活動の様子)</p> <p>☆クランクの仕組みから発想を広げ、つくりたいおもちゃを思い付いている。</p> <p>【イ発想や構想の能力】 (活動の様子、計画カード)</p>
<p>3 クランクの仕組みをつくる。</p> <p>・動きを確認しながら、クランクがスムーズに回るように考えてつくる。</p> <p>・実際のクランクの動きから新しい発想を思い付くなど、更にイメージを広げる。</p>	第3次	<p>・ペンチの使い方などをおさえ、児童が活動しやすいよう支援する。</p> <p>◇仕組みづくりの手順を示す。</p> <p>◇児童のつまづきを予測し、仕組みを完成できるように支援する。</p> <p>◇針金の曲げ方がかき込める紙を用意し、かいた線に合わせて針金を曲げられるようにする。</p> <p>◆安全に留意する。</p>	<p>☆アイデアスケッチや、クランクの動きなどを基に、自分のイメージに合った材料や形を考えている。【イ】 (活動の様子、つぶやき、作品)</p> <p>☆表したいイメージに合わせて材料や用具の特徴を生かし工夫している。</p> <p>【ウ創造的な技能】 (活動の様子、つぶやき、作品)</p>
<p>4 つくりたいおもちゃのイメージに合わせて、工夫してつくる。</p>	第4次	<p>・面白い工夫をしている児童の活動を取り上げ、共有できるようにする。</p> <p>・児童の発想や工夫を認める声掛けをする。</p> <p>◇計画カードを配布し振り返りできるようにする。</p>	<p>☆アイデアスケッチや、クランクの動きなどを基に、自分のイメージに合った材料や形を考えている。</p> <p>【イ】(活動の様子)</p> <p>☆表したいイメージに合わせて材料や用具の特徴を生かし工夫している。</p> <p>【ウ】(活動の様子、作品)</p>
<p>5 自分の作品を紹介したり、友達作品を見たりして、互いの作品の工夫やよさを感じ取る。</p>	第5次	<p>・鑑賞カードを用意し、自分の工夫を振り返り、友達作品への興味を高める。</p> <p>◆鑑賞の時間を十分に取る。</p>	<p>☆自分や友達のアイデアや動きの面白さ、表し方の工夫を感じ取っている。</p> <p>【エ鑑賞の能力】 (活動の様子、鑑賞カード)</p>

7 成果と課題

(1) 手だてに照らし合わせた成果と課題

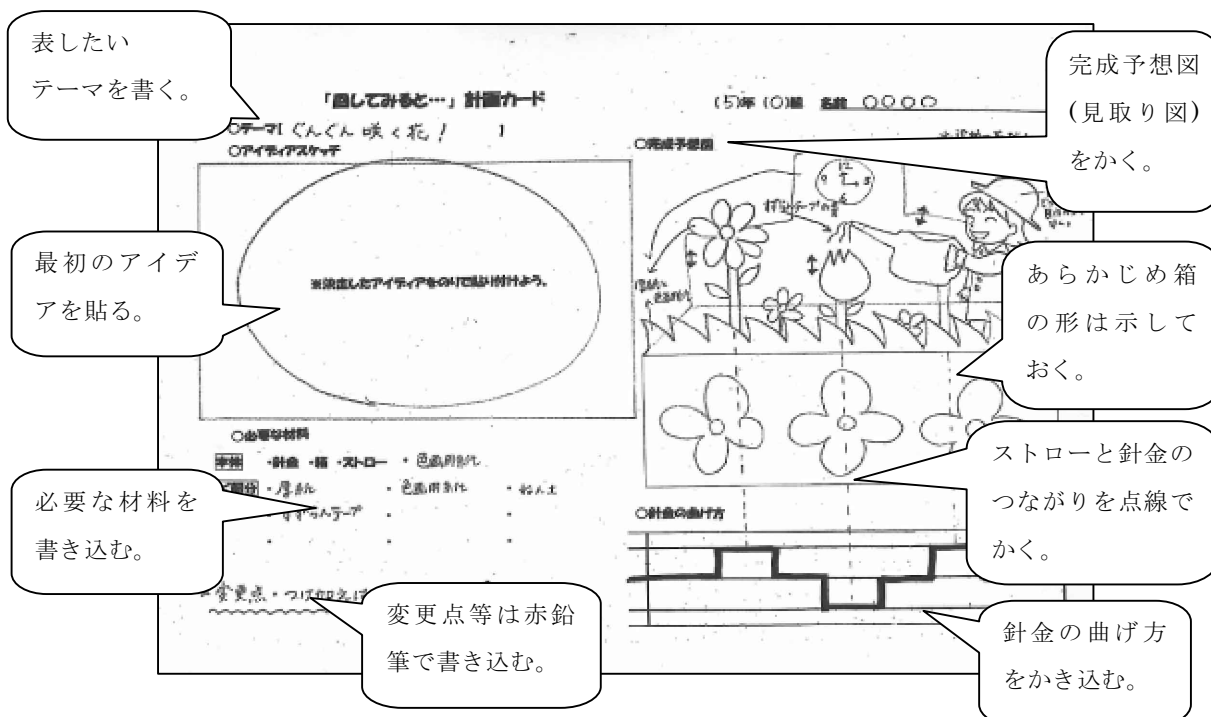
○成果 ●課題

<p>児童の関心・意欲を高める授業の工夫</p>	<p>○導入時にクランクの仕組みを提示したことで、児童の関心・意欲を高め、作品のイメージをもたせることができた。 ○児童への肯定的な声掛けにより、児童理解と意欲の高まりが見られた。</p>
<p>児童の発想や構想を広げるための指導の工夫</p>	<p>○ワークシート（計画カード）がアイデアを具体的にする上で有効であった。特に裏面に例を示したことで、児童にとって取り組みやすいものとなった。 ○活動の途中で児童の表現の工夫を紹介したことが、他の児童にとって発想の手掛かりとなり、試す姿が見られた。 ●児童のつくりたいもののイメージに合わせた大きさの箱にできるような支援が必要であった。</p>
<p>児童の発想や構想を生かして表現する指導の工夫</p>	<p>○針金を曲げる際の「ガイド」は曲げ方を理解しにくい児童にとって有効であった。 ○活動の過程においても、クランクの見本を手にとって確認できるようにしたところ、仕組みへの理解が深まった。 ●黒板等を活用し、今までの学習を振り返れるようにする手だてがあってもよかった。 ●児童の発達段階に応じた接着の仕方について指導が必要であった。</p>
<p>その他</p>	<p>○意欲的に活動を続けていた。ワークシートの提示の工夫や活用により、児童がイメージや見通しをもって取り組めることが分かった。</p>

(2) 成果の資料

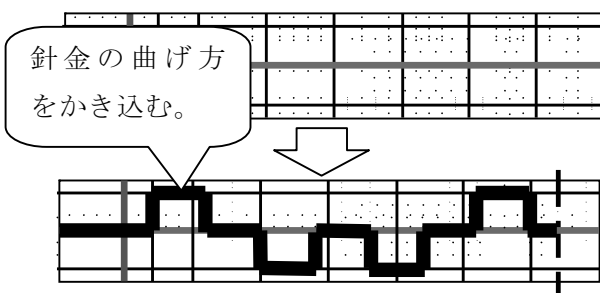
① 計画カード

思い付いた発想や構想を具体的にするための手だてとして「計画カード」を準備した。裏面に同形式の参考例(下図)を載せ、発想や構想の手掛かりとなる視点を示した。

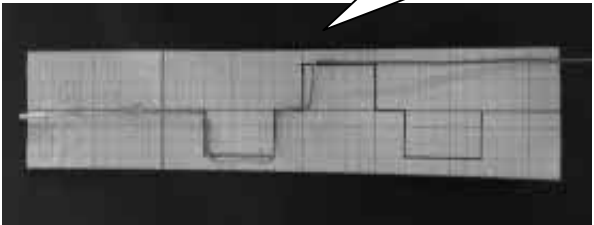


②針金の曲げ方ガイド

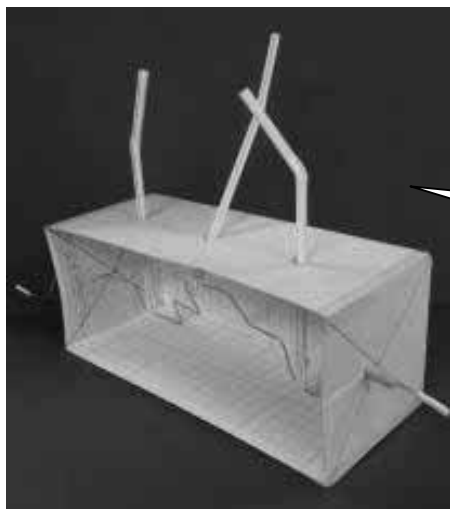
クランクの仕組みをつくる際、針金をどの位置で曲げたらよいかを明確にするために、手だてとして「針金の曲げ方ガイド」を準備した。



針金をガイドに合わせて曲げる。



③作品の見本例



表現の過程において、班に1つずつ配布し、仕組みを手にとって確認できるようにする。

(3) 児童の作品

「計画カード」の段階で、凧糸や綿を使うことを計画して取り組んでいる。



箱の形を発想に合わせてつくっている。

「風船、飛んでっちゃった！」



「最強のドラゴン」

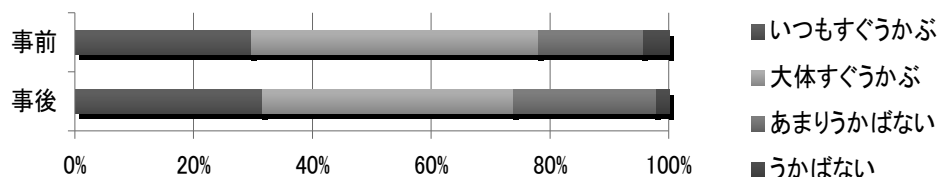
VI 研究の成果

1 検証授業前、後における実態調査結果の比較

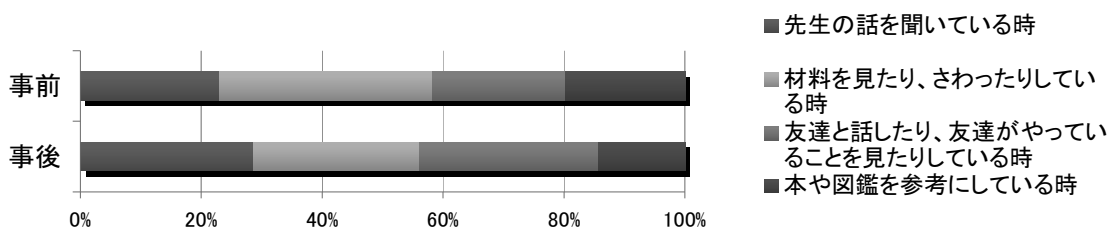
(1) 調査の概要

事前調査実施 9月 都内3校 児童数 91名 事後調査実施 12月 同校児童数 92名

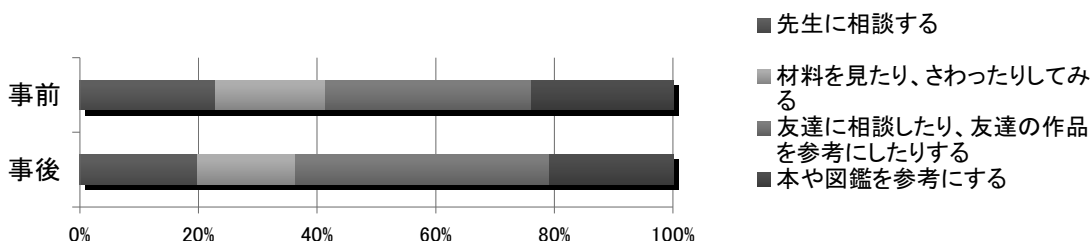
質問1 作品をつくる時、アイデアはすぐにうかびますか。



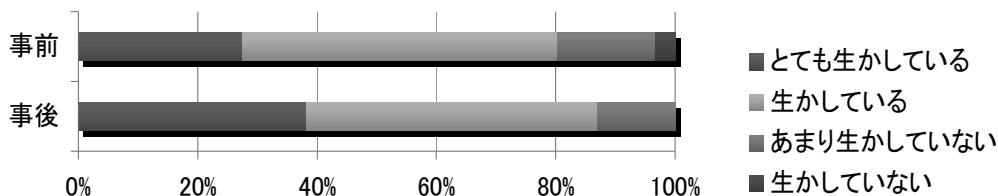
質問2 アイデアがうかぶのは、どんな時ですか。



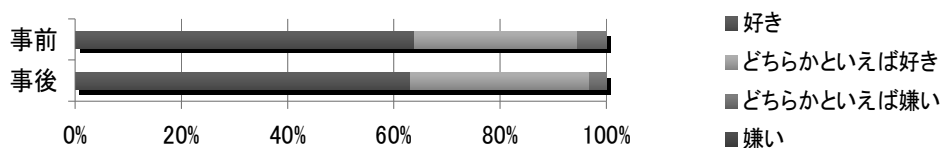
質問3 アイデアがうかばない時は、どうやって解決していますか。



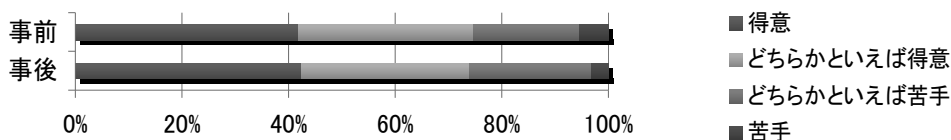
質問4 作品をつくる時に、自分が経験したことやそれまでの図工の時間に学んだことを生かしてつくっていますか。



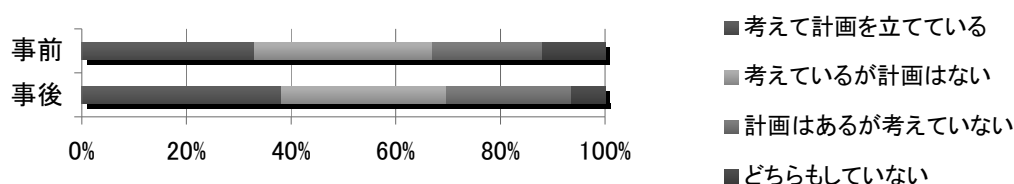
質問5 アイデアを練ったり、つくり方を考えたりすることは好きですか。



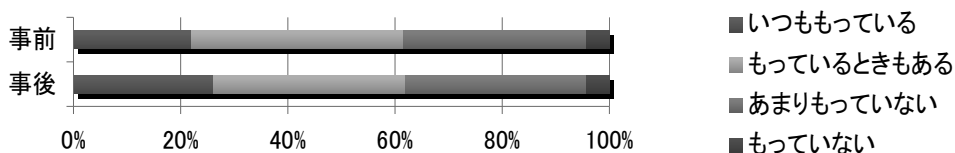
質問6 アイデアを練ったり、つくり方を考えたりすることは得意ですか。



質問7 作品をつくる時、考えたり計画を立てたりしてつくっていますか。



質問8 自信をもって作品をつくっていますか。



(2) 調査結果からの検証

実態調査の結果の比較したところ、質問4では「作品をつくる時に、自分が経験したことやそれまでの図工の時間に学んだことをとても生かしている」「生かしている」と回答した児童の割合が増えており、「まったく生かしていない」と回答した児童は0人だった。本研究の手だてを通して、児童が学び（過去の経験や題材の中での学び）を次の活動につなげて表現しようとする児童を育てることができていることが分かった。

また、質問8の事前調査で「自信をもってしている時もある」と回答した児童のうち数名が「いつも自信をもってしている」に移行した。この結果から、本研究の手だては、自信を高めることに有効だったことが分かる。しかしながら「自信をあまりもっていない」「もっていない」と回答した児童の数に変化はなく、このことから年間を通した取組と、自信がない児童への個別指導の手だてを具体的にしていける必要があると考える。

2 研究の成果

本研究を通して発想や構想の能力について協議を重ね、理解を深めるとともに、A 表現(1)と A 表現(2)におけるプロセスの違いを共通理解することができた。また、研究主題に迫る手だてによって得られた成果を以下に挙げる。

<p>児童の関心・意欲を高める授業の工夫</p>	<p>○導入における演示の工夫 ○導入における完成作品の活用方法の提案 活動の始まりにおいて材料の扱い方の演示、仕組みの提示、授業で作成した作品を実際に使ってみよう提案することなどが児童の意欲を高めることに有効だった。</p> <p>○活動の過程における達成感や喜びを味わわせるための肯定的な声掛け及び支援 教師から適切に声を掛けられたり、作品の写真を撮ってもらったりした児童は、その後から嬉しそうに活動していた姿が多く見られた。 教師による児童への肯定的な声掛けや励ましは、児童理解を深め、児童の表現したいものに対しての具体的な支援につながり、更に意欲が高められることが実証できた。</p>
<p>児童の発想や構想を広げるための指導の工夫</p>	<p>○発想や構想の手掛かりになる視点や方法の提示 活動の始まりや過程における作品の鑑賞や、発想や構想の手助けとなる資料や方法、ワークシート等の提示が、児童にとって発想や構想の手掛かりとなった。また、他の児童の発想や作品の紹介により、自分でも試したり取り入れたりする児童が増え、その後の活動が活性化された。</p>
<p>児童の発想や構想を生かして表現する指導の工夫</p>	<p>○これまでの表現活動における発想や構想したもの、作品等の資料の活用や提示 これまでの学習を振り返ることができるような掲示物や、見本等を手にとって見ることができるようにしたことで、児童が今までの活動に立ち戻りながら活動できた。</p>
<p>その他</p>	<p>○ワークシートの有効性 ワークシートを工夫して用い、アイデアスケッチを行う時間を確保することで、一単位時間における活動のねらいや到達目標をはっきりさせることができた。また、いつでも振り返りが可能な児童の記録として、児童が更に発想や構想を広げたり、アイデアを具体化したりする上で有効であった。さらに、教師が児童の表したいものやつくりたいものへの理解と支援の資料としても有効である。</p> <p>○創造的な技能を支える手だてとしての見本や教材 クランクを作成する際、つくりたい構造に合わせて針金を曲げることができるようなガイドを作成することで、針金を曲げる段階でつまずく児童に対する支援ができ、意欲を保ったまま活動を続けることができた。</p>

VII 今後の課題

<p>児童の関心・意欲を高める授業の工夫</p>	<p>●成功体験を増やせるような題材設定及び指導計画 児童への肯定的な声掛けは実証できたが、児童が成功体験を積み重ねることで自信をもっていくことも分かった。これからは児童が成功体験を重ねていけるよう授業の流れを整理するとともに、題材の設定や開発を行う。</p> <p>●児童への声掛けの仕方の開発 児童の工夫をとらえる視点より、児童の発想を引き出す質問の開発やよさを伝える声掛けの開発を行い、言語活動の充実につなげる。 今回は、児童への手だてとしての声掛けが有効であることは実証できたが、活動内容や個に応じた声掛け、自信のない児童への支援としてどのような声掛けや手だてが有効か、より具体的にしていく必要がある。</p>
<p>児童の発想や構想を広げるための指導の工夫</p>	<p>●ワークシートの活用と改善 ワークシートは、題材や児童の発達段階に応じて記入の仕方を検討し、題材に応じて発想を段階的に引き出し、計画性をふまえた構想ができるよう分かりやすいものに改善していく必要がある。</p>
<p>児童の発想や構想を生かして表現する指導の工夫</p>	<p>●児童の発達段階及び児童理解に基づいた手だて 児童の発達段階及び児童理解に基づいて、材料・用具の経験を計画的に増やすと共に、児童に与える情報の精選、ねらいの明確な設定（育成すべき資質や能力）を行う必要がある。</p>
<p>その他</p>	<p>●児童に自信をもたせるための具体的な手だての検証 実態調査の結果を踏まえ、児童に自信をもたせるためには、年間を通した計画的・系統的な取り組みが必要であることが分かった。また、自信がない児童に対して、児童理解に基づく個に応じた具体的な手だてを検証していく。</p> <p>●発想や構想の能力と創造的な技能のつながりに視点をあてた研究 本検証授業では、マークの周りの形を決める際に、色々な形の穴が開いたカードや、針金を曲げる際のガイドを準備したことが、児童の思いを具現化するための手だてとなった。発想や構想の能力を働かせて、思い浮かんだアイデアを具現化するためには創造的な技能が必要である。これからは、この2つの能力の関係に視点をあて、アイデアを実現するための基礎的・基本的な技能の定着及び活用の仕方が課題である。児童が自分自身で考えたアイデアの実現をすることにより、自分の表現に自信をもち、新たな表現を生み出していけるような研究を深めていきたい。</p>

平成 25 年度 教育研究員名簿

小学校・図画工作

地区	学校名	職名	氏名
墨田区	外 手 小 学 校	主任教諭	谷 村 類 子
北 区	滝野川第三小学校	主任教諭	小 西 愛 美
青梅市	若 草 小 学 校	主任教諭	久 下 ひかる
稲城市	若 葉 台 小 学 校	主任教諭	◎ 荒 井 香 織

◎世話人

[担 当] 東京都教職員研修センター研修部教育経営課

指導主事 今 福 ちか

平成25年度

教育研究員研究報告書

小学校・図画工作

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成25年度第193号〕
平成26年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課

所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

電話番号 (03) 5320-6836

印刷会社 昭和商事株式会社